

令和4年5月23日
島根県防災部防災危機管理課
担当：長廻、吉永
電話：0852-22-6486

第70回島根県対策本部会議の開催結果について

本日、標記会議を開催しました。概要は下記のとおりです。

日 時：令和4年5月23日（月） 13:30～13:55

場 所：島根県庁6階 講堂

出席者：知事、副知事、県警本部長、各部局長、女性活躍推進統括監、関係課長
計25名

内 容：以下のとおり

1. 県内の患者発生状況等について

(1) 県内の患者発生状況等について

健康福祉部（健康福祉部次長）

① 県内の患者発生状況等について説明

【資料1】

- ・4月の陽性者数は4,358人と、ひと月としては過去最多となりました。5月は22日までに2,514人の陽性者が確認されています。
- ・3月の下旬から感染が再拡大し、4月は連日100人を超える陽性者数が確認されています。4月18日からの週の棒グラフは1,234人と、大きな山となっておりますが、1日当たりの陽性者数が過去最多となった4月21日の219人を含んでいます。大型連休期間中は、二桁の陽性者数となる日もあり、山が低くなっています。連休明けには1日当たり150人を超える日が続き、再び山が高くなりましたが、直近1週間は1日当たり100人前後で推移しており、山も低くなっています。
- ・病床確保状況については、最大で371床を確保しており、現在、速やかに患者の受入れができる即応病床を、329床まで増やしています。22日時点での入院患者数は51人で、病床使用率は、確保病床で13.7%、即応病床で15.5%となっております。22日時点で療養先の調整が終わった入院等調整済の方が100人、調整中の方が56人となっております。

- ・現在は、必要な入院治療が提供できる体制を確保するため、病床確保計画上の第5段階の運用として、保健所・県広域入院調整本部のメディカルチェックによる療養先の調整を実施しているところです。軽症で重症化のリスクのない方は宿泊療養または自宅療養としており、22日時点で、宿泊療養は23人、自宅療養は794人となっております。
- ・現在、各保健所においては、陽性者が確認されたすべての事業所等を対象として、引き続き、積極的疫学調査や幅広いPCR検査等を行うとともに、入院等の療養の調整、自宅療養者に対して健康観察・生活支援を全力で行っております。また、各保健所に対して健康福祉部から専門職を、全庁応援として事務職を派遣するとともに、関係自治体などからも保健師等の専門職を派遣いただき、各保健所の体制を強化しております。今後も必要に応じた対応を迅速かつ柔軟に行ってまいります。
- ・オミクロン株は感染力が強く、感染の広がりも早いことから、早期発見が大切であり、日々の体調管理をしっかりと行っていただくとともに、体調に異常があった場合は早期に受診されるよう、積極的に呼びかけを行ってまいります。

健康福祉部（感染症対策室長）

① 県内の患者発生状況等について説明 【資料1 グラフ】

- ・直近一週間の感染者数（人口10万人対）の推移について、感染者数はGW期間中、いったん下がりました。しかし、GWの後半からリバウンドし始めて、5月13日あたりで再ピークを迎えております。リバウンドのピークはすでに過ぎて、現在減少傾向を示しております。
- ・県内の地域別の感染状況について、GW前は、松江市、出雲市、雲南市が目立っておりましたが、GW後、リバウンドしている自治体もありますが、一番リバウンドしていた出雲市も、現在、減少傾向を示しておりますし、他の市においても減少傾向が確認できます。ただし、江津市は人口10万人あたりの直近一週間の感染者数が172.7となっており、大きなクラスターが2つ発生したことが数値に反映されております。
- ・年代別の感染状況の比較について、GW後、リバウンドしている世代は、18歳以下の子供たち、19から20歳代の若い方々となっております。また、現在リバウンドもピークアウトして、減少傾向となってい

ます。

- ・感染者が一番多い18歳以下の年代別の推移について、GW前は各年代で大きなピークを迎えておりますが、GW中に減少しています。GW後のリバウンドが一番大きかったのは、16～18歳の高校生の年代、部活動でのクラスターが多数発生した影響かと考えられます。現在は、この高校生の年代についても低く推移している状況になっておりますし、併せて中学生の年代も低く推移している状況になっております。しかしながら、大きなリバウンドはありませんでしたけども、未就学の6歳以下の子供たち、そして小学生の年代の子供たちについては、高い水準で推移している状況です。

(2) 全国の感染状況及び「感染状況のレベル」について

防災部（防災危機管理課長）

- ② 全国の感染状況について

【資料2】

- ③ 「感染状況のレベル」について

【資料3】

2. 島根県の対応について

(1) 島根県の対応について

防災部（防災危機管理課長）

- ① 島根県の対応（案）について

【資料4】

商工労働部（商工労働部長）

- ② 「再発見！あなたのしまねキャンペーン」の拡大・延長及び
県の観光誘客施策の再開について

【資料5】

健康福祉部（感染症対策室長）

- ③ マスク着用の考え方及び就学前児の取扱いについて

【6資料】

3. 知事指示事項

1. 大型連休直前の県内の感染状況は、4月21日確認分の新規陽性者数が過去最多の219人となるなど、厳しい状況でございました。

加えて、連休期間中は、人の移動が活発になり、感染拡大の恐れがあったことから、県民の皆様、都道府県をまたぐ帰省や旅行を控えていただくことなどを、改めてお願いさせていただいたところであります。

直近の県内の感染状況を見ると、連日100人前後の新規陽性者が確認されているものの、直近1週間の人口10万人あたりの新規陽性者数は、本日発表分で105人となり、連休直前の4月25日の192人（過去最大値）から、ペースは緩やかであります。改善しています。

県民の皆様のご協力のおかげで、当初懸念していた大型連休前の高い水準からいっそう感染拡大してしまう事態は、回避できたと考えています。

こうした県内の感染状況と、全国の感染状況等を踏まえ、「島根県の対応」に基づいて、県民及び事業者の皆様へ、お願いをさせていただきます。

要請の期間は、令和4年5月24日から当面の間とします。

特にお願いしたい事項について、申し上げます。

2. 大型連休等が終わったことや、ホテル・旅館を利用された場合の感染リスクは高くないと考えられること等を踏まえ、まずは、中国地方・四国地方への往来自粛要請を解除することとします。

その他の都道府県をまたぐ不要不急の移動は、中国地方・四国地方の解除後、どういった状況になるかということをしばらく見守って対応を検討したいと思いますので、現時点では、引き続き控えていただくことをお願いします。

移動を控えていただく都道府県については、やむを得ない仕事や、通勤・通学、転勤、就職活動、婚礼、葬儀・法要、看病・介護、通院、生活必需品の買い物などでの移動は、発熱等の症状がある場合を除き、控えていただく必要はありませんが、「三つの密」の回避を含め基本的な感染防止対策を徹底していただくよう、お願いします。

また、ホテル・旅館での感染リスクは低いと考えられますが、自宅・個人宅においては、マスクを外して過ごす場面が多いことから、県外のご家族やご親戚などが県内の自宅に滞在される場合や、県外の個人宅等に県民の方が滞在される場合は、自宅や個人宅等でも家庭でできる感染防止対策を徹底していただくようお願いいたします。

なお、県外出張や県外から人を招くこととなる仕事の延期等については、終了します。

3. 感染に不安を感じる無症状の県民の方を対象とした無料検査については、

5月31日までを期限としていましたが、6月30日まで延長します。

4. 3月4日に県西部地域と隠岐地域の利用人数を緩和しましたが、それ以降、飲食店等におけるクラスターは現時点で確認されていません。

こうしたことから、県内の各地域の感染状況を踏まえまして、飲食店等の利用については、次のとおり、緩和します。

(1) 飲食の際の人数については、

- ① 松江市と出雲市の飲食店等を利用する場合は、8人以下としてください。
- ② その他の地域の飲食店等を利用する場合は、12人以下としてください。

ただし、次の条件を全て満たす場合は、①及び②の人数制限は適用しません。

ア. 同一テーブルの真正面の席との間にアクリル板等を設置し、隣席との対人距離を1m以上確保、またはアクリル板等を設置している。

イ. テーブルが別であっても対人距離を1m以上確保、またはアクリル板等を設置している。

ウ. 一つのテーブルを6人以下で利用する。

エ. テーブル間の移動をしないこと。

なお、この人数制限については、自宅で食事をされている関係にある同居家族等が飲食店等を利用する場合は、適用除外とします。この扱いは、県内全ての地域を対象とします。

(2) 時間については、限度を2時間としていたものを3時間に変更します。これは、複数の店舗を利用する場合も含めて合計した時間です。

(3) 中国地方・四国地方以外の県外の方との飲食は、引き続き、県内、県外を問わず、控えていただくようお願いします。

5. 観光キャンペーンについては、国の制度を利用した「再発見！あなたのしまねキャンペーン」の対象に中国地方（広島県を除く）と四国地方を追加し、5月25日から拡大するとともに、事業の期間を、6月30日まで延長

します。

6. また、県等が独自に実施する、県外からの観光誘客施策につきましては、準備の整った事業から、速やかに再開することとします。
7. 都道府県をまたぐ移動や、飲食店等の利用、さらに観光関連事業の扱いについては、今後の感染の状況によって、感染が拡大すれば厳しくする方向に、感染が落ち着く状況が続けば緩和する方向に適宜、見直していきたいと考えています。
8. 県としましては、県内と全国の感染状況を注視し、国や他の都道府県、市町村、医療機関等と十分に連携しながら、感染拡大防止、医療提供体制の確保、ワクチンの追加接種等の円滑な推進、傷んだ地域経済の回復などに向け全力で取り組んでいく考えでありますので、引き続き、県民の皆様のご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。

第 70 回 島根県対策本部会議

日時: 令和 4 年 5 月 23 日 (月) 13:30～
場所: 県庁 6 階 講堂

1. 県内の患者発生状況等について

2. 島根県の対応について

3. 知事指示事項

(配付資料)

- | | |
|---|---------|
| (資料 1) 県内の患者発生状況等について | 【健康福祉部】 |
| (資料 2) 全国の感染状況について | 【防災部】 |
| (資料 3) 「感染状況のレベル」 | 【防災部】 |
| (資料 4) 島根県の対応 (案) | 【防災部】 |
| (資料 5) 「再発見! あなたのしまねキャンペーン」の拡大・延長及び
県外からの観光誘客施策の再開について | 【商工労働部】 |
| (資料 6) マスク着用の考え方及び就学前児の取扱いについて | 【健康福祉部】 |

新型コロナウイルス感染症の状況について

令和2年4月に県内で初めて陽性者が確認されてから令和4年5月22日までに、計16,379人の陽性者が確認されました。

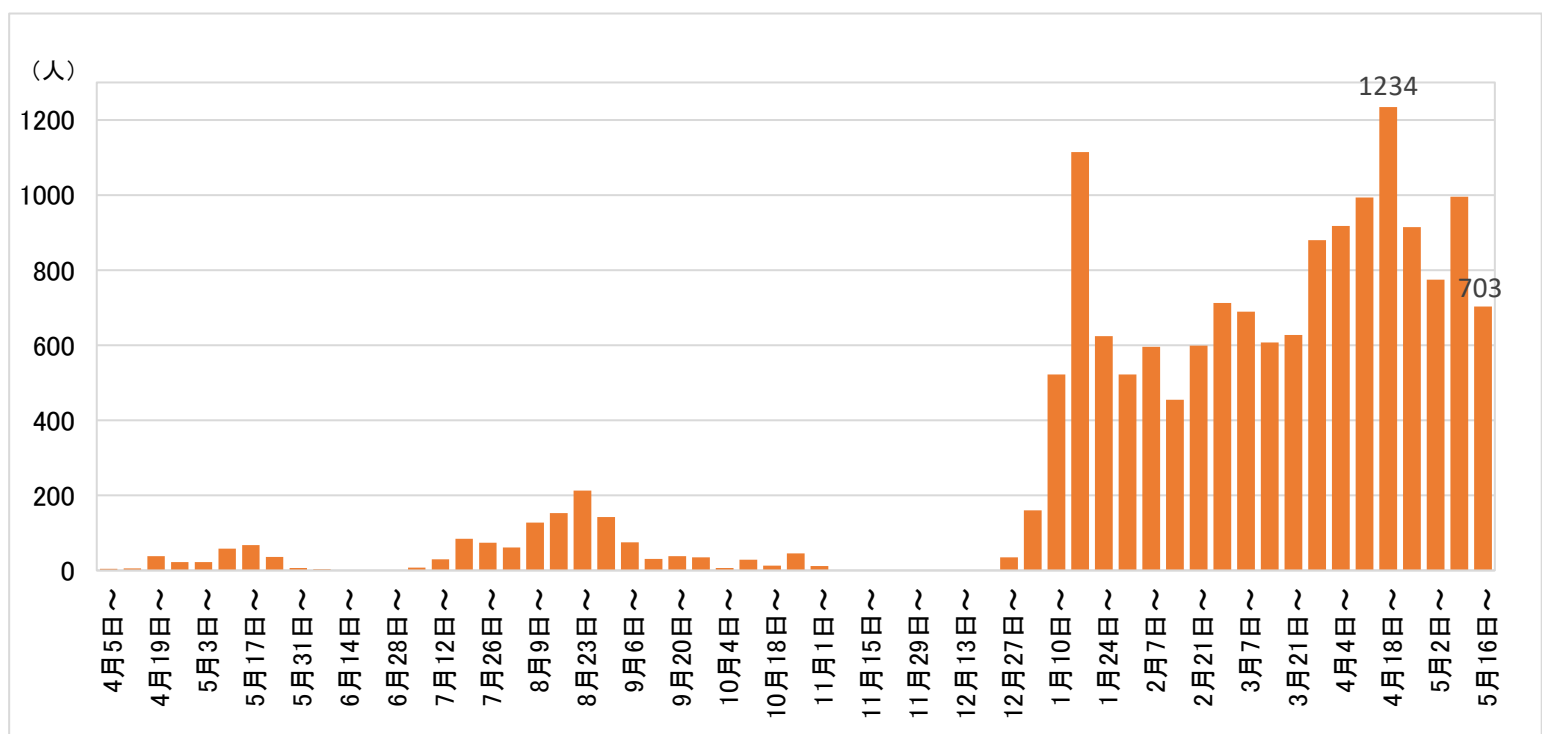
4月は4,358人、5月は22日までに2,514人の陽性者が確認されています。

1. 令和4年5月以降の陽性者の発生状況（5月22日確認分まで）

陽性判明日	陽性者数	居住地別内訳
5月1日	72人	松江市29人、出雲市24人、益田市2人、大田市1人、安来市12人、雲南市2人、県外2人
5月2日	155人	松江市64人、浜田市2人、出雲市50人、益田市4人、大田市1人、安来市11人、雲南市4人、奥出雲町2人、邑南町3人、隠岐の島町4人、県外10人
5月3日	79人	松江市31人、浜田市4人、出雲市20人、益田市2人、大田市7人、安来市6人、雲南市3人、奥出雲町1人、邑南町2人、隠岐の島町2人、県外1人
5月4日	89人	松江市17人、出雲市34人、益田市3人、大田市5人、安来市12人、雲南市10人、奥出雲町2人、美郷町1人、隠岐の島町2人、県外3人
5月5日	68人	松江市30人、出雲市19人、益田市2人、大田市1人、安来市3人、江津市1人、雲南市4人、奥出雲町1人、邑南町2人、隠岐の島町1人、県外4人
5月6日	138人	松江市61人、浜田市2人、出雲市40人、益田市10人、大田市2人、安来市8人、江津市1人、雲南市5人、奥出雲町1人、美郷町2人、隠岐の島町3人、県外3人
5月7日	127人	松江市43人、浜田市3人、出雲市52人、益田市8人、大田市1人、安来市5人、江津市2人、雲南市4人、飯南町4人、美郷町1人、津和野町1人、隠岐の島町1人、県外2人
5月8日	119人	松江市42人、浜田市2人、出雲市42人、益田市2人、大田市4人、安来市10人、雲南市8人、飯南町1人、海士町3人、西ノ島町1人、隠岐の島町1人、県外3人
5月9日	160人	松江市48人、浜田市7人、出雲市58人、益田市4人、大田市10人、安来市10人、江津市4人、雲南市6人、奥出雲町1人、飯南町5人、川本町2人、美郷町1人、吉賀町1人、県外3人
5月10日	159人	松江市37人、浜田市10人、出雲市65人、益田市12人、大田市11人、安来市4人、江津市3人、雲南市4人、飯南町3人、川本町2人、邑南町1人、吉賀町1人、県外5人、非公表1人
5月11日	153人	松江市28人、浜田市8人、出雲市50人、益田市8人、大田市11人、安来市16人、江津市6人、雲南市8人、奥出雲町1人、飯南町1人、川本町4人、邑南町1人、津和野町5人、県外6人
5月12日	150人	松江市30人、浜田市8人、出雲市68人、益田市3人、大田市14人、安来市4人、江津市7人、雲南市2人、奥出雲町2人、飯南町1人、川本町3人、邑南町3人、津和野町3人、県外2人

5月13日	143 人	松江市36人、浜田市7人、出雲市64人、益田市3人、大田市7人、安来市8人、江津市2人、雲南市8人、川本町2人、美郷町1人、邑南町2人、津和野町2人、県外1人
5月14日	100 人	松江市32人、浜田市10人、出雲市37人、益田市2人、大田市7人、安来市3人、江津市4人、雲南市2人、飯南町1人、川本町1人、邑南町1人
5月15日	99 人	松江市35人、浜田市6人、出雲市33人、大田市3人、安来市3人、江津市4人、雲南市8人、川本町3人、邑南町3人、県外1人
5月16日	112 人	松江市27人、浜田市10人、出雲市45人、益田市6人、大田市3人、安来市6人、江津市9人、雲南市3人、邑南町2人、県外1人
5月17日	106 人	松江市34人、浜田市5人、出雲市37人、益田市4人、大田市7人、安来市8人、江津市5人、雲南市4人、邑南町1人、県外1人
5月18日	118 人	松江市51人、浜田市16人、出雲市32人、益田市3人、大田市1人、安来市5人、江津市3人、雲南市3人、飯南町1人、川本町1人、邑南町2人
5月19日	104 人	松江市56人、浜田市3人、出雲市25人、益田市4人、大田市2人、安来市4人、江津市4人、雲南市2人、川本町1人、邑南町1人、県外2人
5月20日	97 人	松江市35人、浜田市5人、出雲市41人、益田市3人、大田市3人、安来市1人、江津市6人、雲南市1人、邑南町2人
5月21日	112 人	松江市：52人、浜田市：12人、出雲市：26人、益田市：1人、大田市：4人、安来市：2人、江津市：7人、雲南市：1人、奥出雲町：2人、邑南町：3人、県外：2人
5月22日	54 人	(保健所別内訳) 松江34人、雲南2人、出雲9人、県央2人、浜田7人
5月22日までの計	2,514 人	

2. 令和3年度以降の陽性者数の推移（週単位：5月22日確認分まで）



※上記日付は週単位（月曜日～日曜日）の集計

※直近は5/16～5/22までの集計（実績：703人）

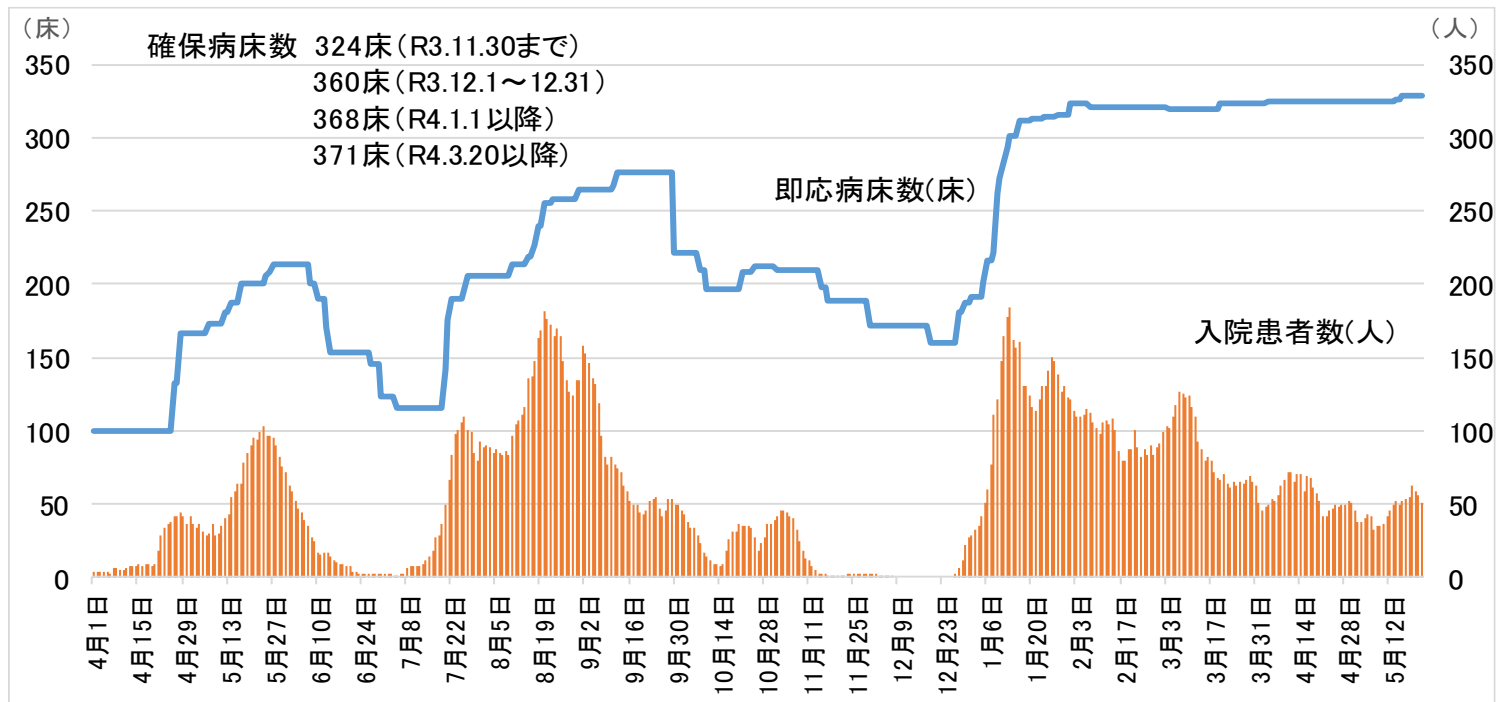
3. 病床確保状況及び使用率（5月22日時点）

確保病床数 (A)	病床使用率		
	即応病床 (B)	確保病床 (C/A)	即応病床 (C/B)
371床	329床	13.7%	15.5%

入院患者数 (C)				
	重症	中等症	軽症	無症状
51人	0人	15人	25人	9人

※入院患者数の内訳は症状調査中の場合もあるため、入院患者数と一致しない場合がある

(令和3年度以降の日別状況)



- ・入院等調整済（入院等予定者） 100人
- ・調整中 56人

4. 軽症者等の療養（5月22日時点）

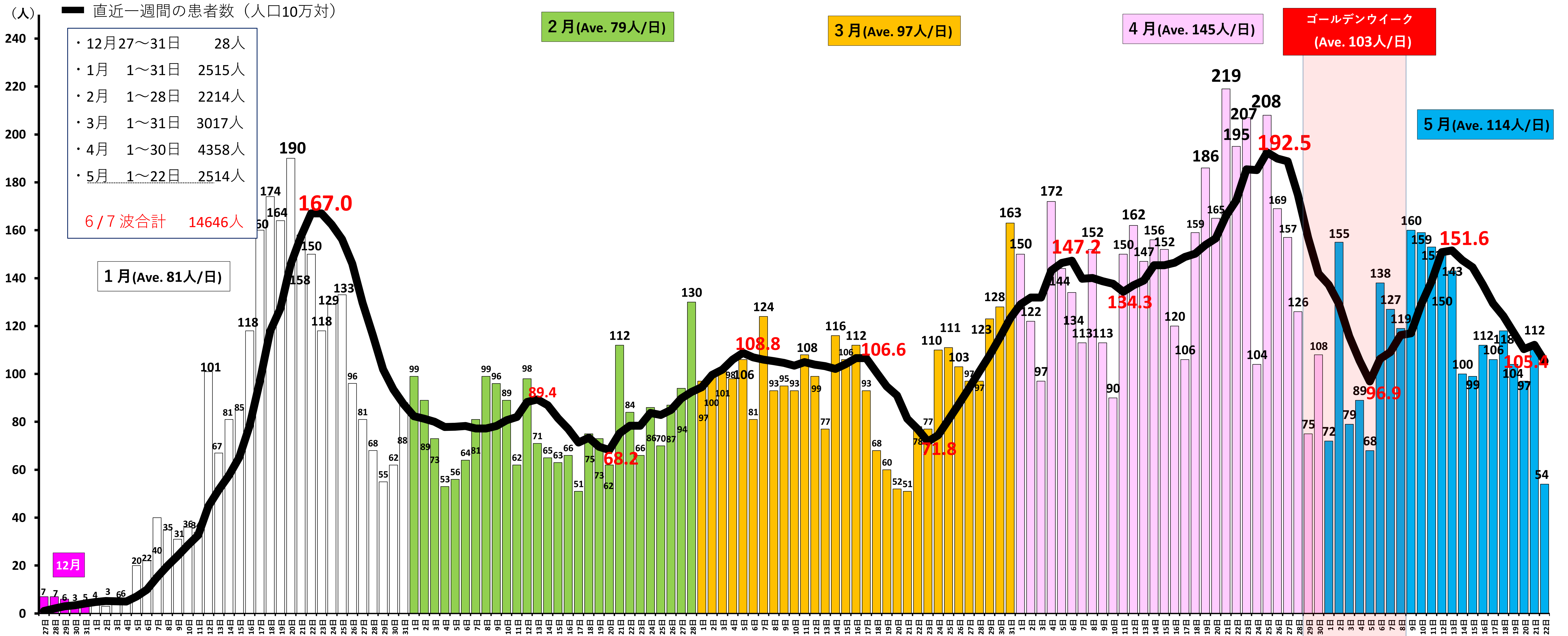
患者の増加に備え、軽症者や無症状者の療養用の宿泊施設として3施設133室を確保

- ・しまね宿泊療養施設（松江市・80室）
- ・島根県立青少年の家「サン・レイク」（出雲市・33室）
- ・島根県立少年自然の家（江津市・20室）

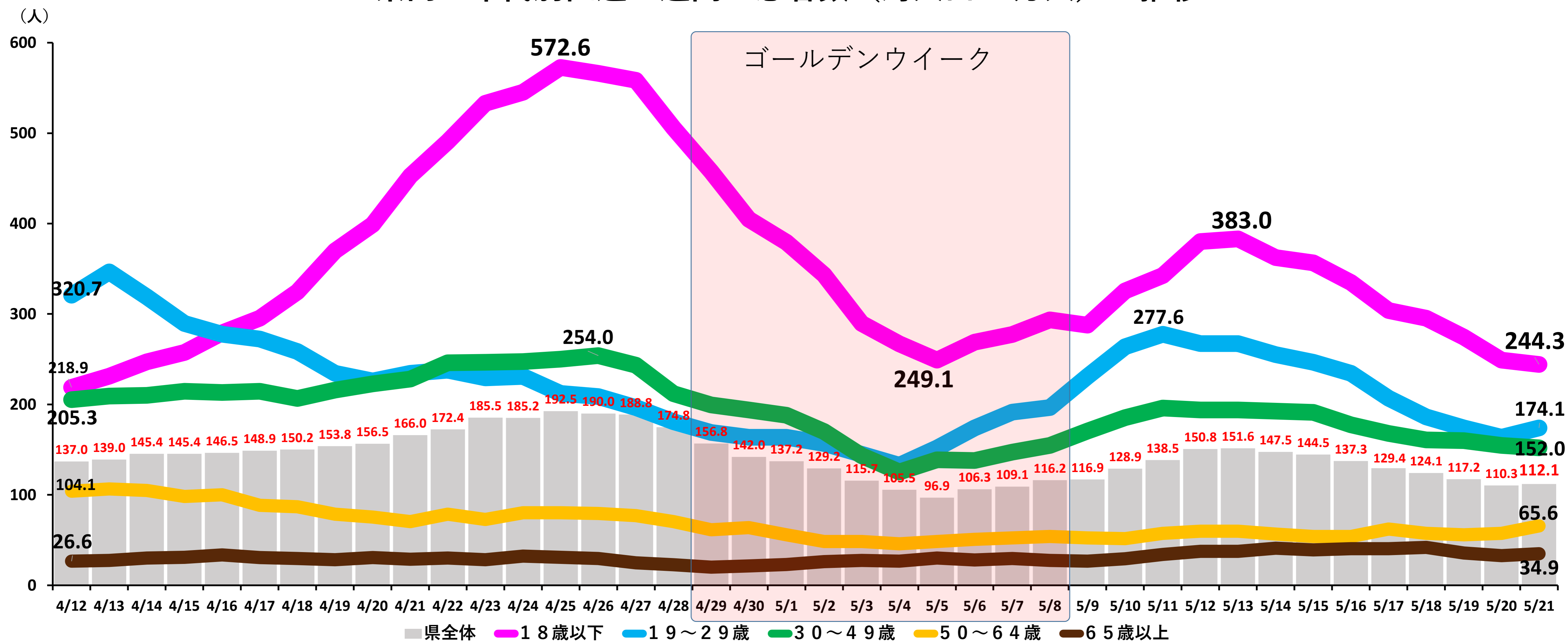
宿泊療養者数 23人

自宅療養者数 794人

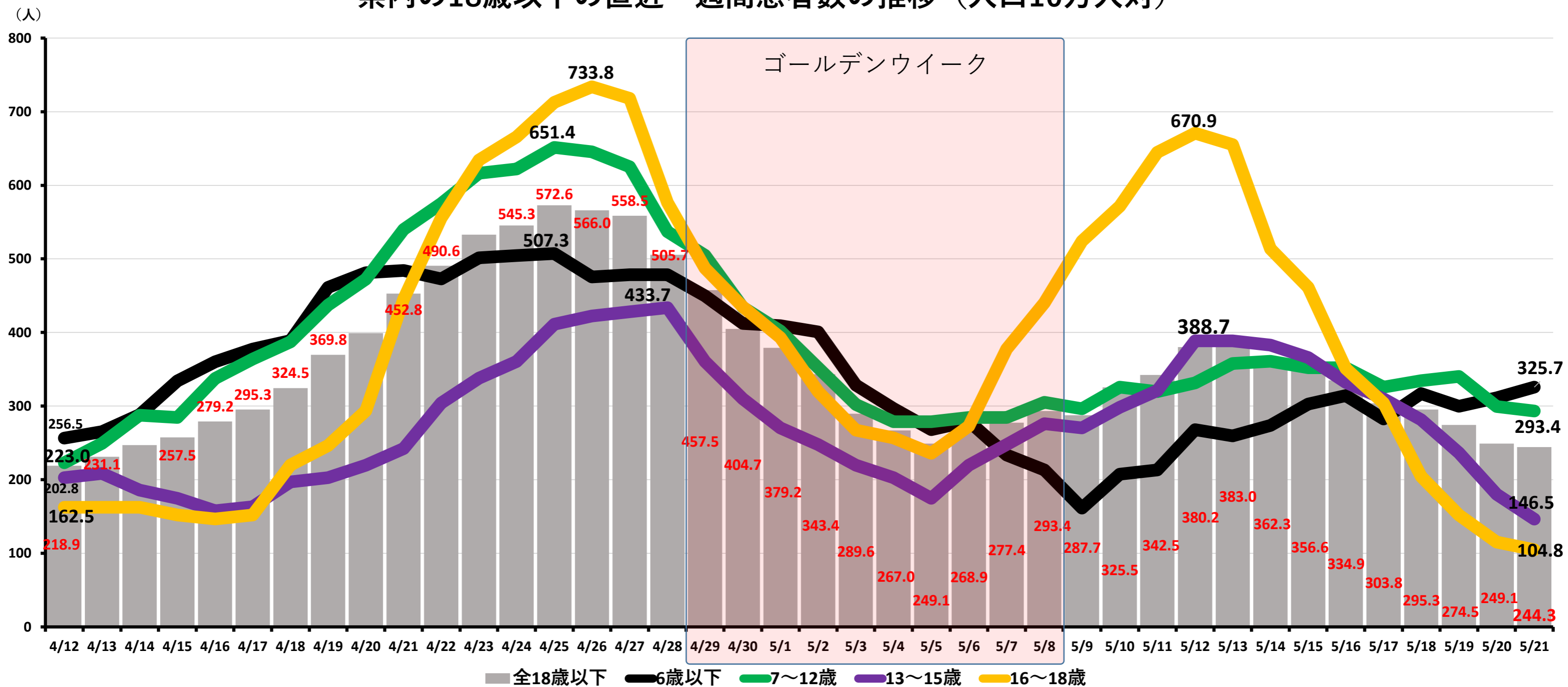
県内の新型コロナウイルス感染症患者数の推移（令和3年12月27日以降）



県内の年代別直近一週間の患者数（対人口10万人）の推移



県内の18歳以下の直近一週間患者数の推移（人口10万人対）



令和4年5月23日10:00時点

全国の感染状況（チャーター便、クルーズ船案件を除く）

No.	新規陽性者数				陽性者数・検査件数比 (陽性率) ※1		感染経路不明割合		死者数 (人口10万人)	
	都道府県	5/6~5/12 人口10万人あ たり (人)	都道府県	5/13~5/19 人口10万人あ たり (人)	都道府県	5/9~5/15の1週間	都道府県	5/7~5/13の1週 間	都道府県	1/1~5/22
1	沖縄	974.74	沖縄	1,022.57	沖縄	58.8%	福岡	100.0%	大阪	22.19
2	北海道	348.30	北海道	337.26	鹿児島	44.6%	千葉	95.3%	奈良	17.67
3	宮崎	317.33	福井	320.70	青森	39.3%	神奈川	90.4%	京都	16.22
4	鹿児島	316.10	宮崎	319.57	滋賀	37.4%	京都	88.0%	兵庫	15.09
5	熊本	300.69	石川	301.05	兵庫	37.1%	石川	80.3%	福岡	12.03
6	佐賀	299.75	広島	300.50	長崎	35.9%	兵庫	76.1%	千葉	11.84
7	福岡	289.13	鹿児島	282.65	秋田	35.8%	宮城	74.8%	愛知	11.69
8	岡山	273.86	福岡	267.44	神奈川	32.5%	奈良	71.9%	高知	11.03
9	香川	273.33	高知	263.18	宮崎	31.8%	大阪	71.3%	北海道	10.86
10	福井	269.01	香川	253.35	熊本	30.9%	青森	68.6%	広島	9.95
11	石川	268.63	岡山	246.35	愛知	30.8%	東京	66.3%	神奈川	9.32
12	広島	255.46	熊本	241.13	佐賀	30.1%	栃木	66.0%	宮崎	9.23
13	大阪	246.00	大阪	235.51	京都	30.0%	岐阜	65.3%	佐賀	9.20
14	大分	241.76	京都	231.82	福岡	29.4%	福島	65.3%	東京	9.08
15	高知	238.97	大分	224.58	北海道	29.3%	埼玉	64.5%	香川	8.89
16	長崎	230.75	佐賀	214.48	高知	28.8%	山形	61.0%	熊本	8.58
17	京都	228.11	愛知	205.55	栃木	27.7%	山梨	60.5%	滋賀	8.13
18	岐阜	203.62	岐阜	204.08	大分	27.6%	富山	59.5%	栃木	7.96
19	東京	198.57	長崎	198.19	埼玉	25.1%	群馬	57.9%	鹿児島	7.68
20	群馬	195.78	兵庫	193.78	群馬	24.9%	岡山	57.8%	三重	7.52
21	青森	194.62	東京	185.50	東京	24.7%	長崎	56.8%	茨城	7.48
22	秋田	188.92	和歌山	183.46	三重	24.6%	北海道	56.0%	群馬	7.16
23	和歌山	187.78	青森	181.46	奈良	24.3%	沖縄	54.8%	埼玉	6.76
24	愛知	182.53	福島	176.65	岩手	24.2%	長野	54.0%	大分	6.61
25	滋賀	180.69	滋賀	172.28	和歌山	24.1%	香川	50.5%	山口	6.04
26	福島	179.63	山口	167.30	岡山	24.1%	静岡	48.8%	和歌山	5.95
27	兵庫	171.39	三重	159.85	大阪	23.6%	茨城	48.7%	岡山	5.87
28	三重	166.14	富山	157.09	富山	23.6%	三重	47.2%	岐阜	5.49
29	栃木	160.86	山形	151.95	石川	23.0%	宮崎	46.2%	静岡	5.41
30	静岡	158.59	静岡	151.10	香川	22.8%	熊本	45.7%	青森	5.30
31	岩手	158.19	奈良	150.30	千葉	22.5%	秋田	43.7%	石川	5.27
32	山梨	157.71	岩手	147.35	岐阜	22.3%	山口	43.2%	山梨	4.81
33	奈良	157.14	長野	145.58	茨城	21.2%	高知	41.6%	長野	4.54
34	埼玉	151.46	宮城	143.45	静岡	21.0%	岩手	41.4%	愛媛	4.26
35	宮城	143.76	神奈川	142.66	山口	20.9%	広島	40.8%	沖縄	4.06
36	新潟	141.75	鳥取	140.47	広島	20.5%	佐賀	40.5%	秋田	4.04
37	神奈川	139.95	埼玉	132.69	愛媛	19.6%	愛媛	36.5%	富山	3.93
38	長野	139.43	栃木	131.85	福井	17.6%	大分	36.3%	長崎	3.84
39	島根	137.09	秋田	131.78	宮城	16.8%	和歌山	34.5%	宮城	3.34
40	山口	132.33	徳島	131.46	山形	15.7%	島根	33.7%	山形	3.34
41	茨城	130.35	茨城	130.45	長野	15.7%	鹿児島	33.6%	岩手	2.69
42	鳥取	130.04	群馬	128.32	福島	15.6%	新潟	32.5%	鳥取	2.34
43	愛媛	127.04	新潟	123.75	新潟	15.0%	鳥取	22.9%	福島	2.28
44	富山	125.10	島根	122.85	島根	14.5%	徳島	22.7%	徳島	1.92
45	山形	123.38	愛媛	111.50	鳥取	14.0%	福井	4.6%	島根	1.48
46	千葉	119.92	千葉	111.22	徳島	11.0%	愛知	-	新潟	1.30
47	徳島	118.27	山梨	109.00	山梨	7.4%	滋賀	-	福井	0.91

【出典】

人口数：人口推計 第4表 都道府県，男女別人口及び人口性比—総人口，日本人人口（2019年10月1日現在）

陽性者数：厚生労働省「確定患者数（報告日ベース）の推移（都道府県別・各日）」（5月20日）

陽性者数・検査件数比、感染経路不明割合：厚生労働省「都道府県の医療提供体制等の状況（医療提供体制等の負荷・感染の状況）について」（5月20日）

死者数：厚生労働省公表のオープンデータを基に作成。国のデータ集計の問題から、実際の数値とは誤差あり。

※1：分子の「各都道府県の発表日ベースの新規陽性者数（疑似症患者を含む）」に対し、

「検査件数（退院時検査等を含む）」を分母として機械的に算出した値であり、いわゆる「陽性率」とは異なる点に留意。

令和 4 年 5 月 23 日 10 : 00 時点
(5 月 16 日～5 月 22 日)

令和 3 年 11 月 8 日新型コロナウイルス感染症対策分科会が提言した「新たなレベル分類の考え方」

レベル	状況	目安	従来の分類 (ステージ)
レベル 0 (感染者ゼロレベル)	新規陽性者数ゼロを維持できている状況	—	I
レベル 1 (維持すべきレベル)	安定的に一般医療が確保され、新型コロナウイルス感染症に対し医療が対応できている状況	—	II
レベル 2 (警戒を強化すべきレベル)	新規陽性者数の増加傾向が見られ、一般医療及び新型コロナウイルス感染症への医療の負荷が生じ始めているが、段階的に対応する病床数を増やすことで、医療が必要な人への適切な対応ができている状況	<ul style="list-style-type: none"> 確保病床の使用率 20%以上 (最大確保病床数 371 床 使用状況 51 床) (5/22 10 時現在 13.7%) 直近 1 週間の人口 10 万人あたりの新規陽性者数が 15 人以上 (5/22 10 時現在 105.40 人/10 万人/週) 注 1 	III
レベル 3 (対策を強化すべきレベル)	一般医療を相当程度制限しなければ、新型コロナウイルス感染症への医療の対応ができない状況	<ul style="list-style-type: none"> 病床使用率 50%超 重症病床使用率 50%超 (5/22 10 時現在 13.7% 0/28 床 0.0%) 予測ツールや様々な指標に基づき、「3 週間後に必要とされる病床数」が最大確保病床数に到達した場合 注 2 	(III の最終局面)
レベル 4 (避けたいレベル)	一般医療を大きく制限しても、新型コロナウイルス感染症への医療に対応できない状況	—	IV

・各レベルの適用については、感染状況や医療ひっ迫の状況等を考慮し、新規陽性者数、今週先週比、入院率等の参考指標を用いて、総合的に判断する。

注 1 保健所のひっ迫も考慮し、病床使用率や新規陽性者数も含め、各都道府県が具体的な数値を設定

注 2 政府分科会の目安に準拠

参考指標

令和4年5月23日10:00時点
(5月16日～5月22日)

令和3年4月15日新型コロナウイルス感染症対策分科会が提言した「ステージ判断のための指標」

指標		医療提供体制の負荷				感染の状況			監視体制 (参考)
		①病床のひっ迫具合		②療養者数 (入院者、自宅・宿泊療養者の合計)	③PCR陽性率	④新規陽性者数	⑤感染経路不明割合		
		入院医療 注1	重症者用病床						
国指標	ステージⅢ	確保病床の使用率 20%以上	入院率 40%以下	確保病床の使用率 20%以上	人口10万人当たりの全療養者数 20人以上	5%以上	15人 /10万人/週以上	50%以上	-
	ステージⅣ	確保病床の使用率 50%以上	入院率 25%以下	確保病床の使用率 50%以上	人口10万人当たりの全療養者数 30人以上	10%以上	25人 /10万人/週以上	50%以上	-
県の状況 【5/23 10:00 時点】		<ul style="list-style-type: none"> 確保病床の使用率 13.7% 入院率 5.0% 最大確保病床数 371床 使用状況 51床 	<ul style="list-style-type: none"> 確保病床の使用率 0.0% 最大確保病床数 28床 使用状況 0床 	人口10万人当たりの全療養者数 153.52人 全療養者 1,024人 (入院者 51人) (宿泊療養者 23人) (自宅療養者 794人) (入院等予定者 100人) (入院等調整中 56人)	11.3% 注2 5/9～5/15 996人 /8,819件	105.40人 /10万人/週 5/16～5/22 703人	27.4% 5/15～5/21 122人/446人 ※調査中を除く	0.73 【5/9～5/15】 964人 【5/16～5/22】 703人	

注1 確保病床とは、病床・宿泊療養施設確保計画において最大限確保した病床をいう。入院率とは、療養者数に対する入院者数の割合をいう。入院率については、感染拡大に伴い療養者数が増加すると、入院できない自宅療養者数等が増加することとなり、入院者に対する療養者数が増加することから、医療の逼迫状況を把握するための指標として用いるものである。このため、入院率の指標については療養者数が人口10万人あたり10人以上の場合に適用する。入院率の数値は、厚生労働省「都道府県の医療提供体制等の状況（医療提供体制・監視体制・感染の状況）」について（6指標）」より引用。

注2 県のPCR陽性率は、PCR検査・抗原検査等の総数を使用。

島根県の対応（案）

島根県対策本部決定

県内と全国の感染状況、基本的対処方針を踏まえ、県民及び事業者に対し、下記のとおり要請する。

要請の期間は、令和4年5月24日から当面の間とする。

1. 都道府県をまたぐ移動

中国・四国地方以外の都道府県との不要不急の移動は、行き先の都道府県の要請を確認の上、極力控えること。

ただし、やむを得ない仕事や、通勤・通学、転勤、就職活動、婚礼、葬儀・法要、看病・介護、通院、生活必需品の買い物などでの移動は、発熱等の症状がある場合を除き、控えていただく必要はないが、「三つの密」の回避を含め基本的な感染防止対策を徹底すること。

また、県外のご家族やご親戚などが自宅に滞在する場合や、県外の個人宅等に滞在する場合は、自宅・個人宅等でも家庭でできる感染防止対策を徹底すること。

2. 基本的な感染対策の徹底

職場や家庭での感染を防ぐため、引き続き、

- (1) 「三つの密」の回避
- (2) 「人と人との距離の確保」
- (3) 「マスクの着用（不織布マスクを推奨）」
- (4) 「手洗いなどの手指衛生」
- (5) 「換気」

など、基本的な感染対策に取り組むとともに、特に職場での「居場所の切り替わり」（休憩室、更衣室、喫煙室等）に注意すること。

3. 家庭や職場等での健康管理

発熱や風邪等の症状がある方は、仕事や学校を休み、外出を控え、すみやかに、かかりつけ医、又はしまね新型コロナウイルス感染症「健康相談コールセンター」に連絡のうえ、医療機関を受診すること。

児童・生徒の保護者の方も、こうした対応を徹底すること。

各職場においても、職員の体調がすぐれない場合は、すみやかに医療機関への受診を促すなど、健康管理を徹底すること。

4. 無料検査の受診

感染に不安を感じる無症状の方は、検査を受けること。なお、この要請については、要請の期間を6月30日までとする。（特措法第24条第9項に基づく要請）

5. 飲食店等の利用

飲食店等の利用については、各店舗において感染防止対策を徹底し、県民の皆様は、そうした店舗を利用することを前提として、

(1) 飲食の際の人数を、次のとおりとすること。

① 松江市と出雲市の飲食店等を利用する場合は、8人以下とすること。

② その他の地域の飲食店等を利用する場合は、12人以下とすること。

ただし、次の条件を全て満たす場合は、①及び②の人数制限を適用しない。

ア. 同一テーブルの真正面の席との間にアクリル板等を設置し、隣席との対人距離を1m以上確保、またはアクリル板等を設置。

イ. テーブルが別であっても対人距離を1m以上確保、またはパーティション等を設置。

ウ. 一つのテーブルを6人以下で利用。

エ. テーブル間の移動をしない。

なお、同居する家族等での利用については、これらの制限を適用しない。

(2) 時間については、複数の店舗を利用する場合も含めて、合計で3時間を限度とすること。

(3) 中国・四国地方以外の県外の方との飲食は、県内、県外を問わず、控えること。

なお、「接待を伴う飲食店」を含め、カラオケの利用が可能な店舗等では、マスクの着用やマイク、リモコン等の消毒、歌唱にあたっては十分な距離を確保すること。

6. ワクチンの追加接種

新型コロナウイルス感染症の重症化や発症等を予防するため、迅速なワクチンの追加接種を進め、接種を希望する全ての方が追加接種を受けられるよう、市町村は、体制の確保に取り組むこと。

7. 業種ごとのガイドライン遵守

感染防止のため、各業界団体が主体となり、業種ごとに実施すべき基本的事項を整理した業種別ガイドラインを遵守すること。(特措法第24条第9項に基づく要請)

8. イベント開催の目安

イベント等については、「島根県の対応(別紙)」に示す要件に沿って開催すること。(特措法第24条第9項に基づく要請)

9. 接触確認アプリの活用

厚生労働省が提供している接触確認アプリ(COCoA)を、感染拡大防止のため、積極的にインストールし、活用すること。

10. 事業所での接触低減の取組

事業所においては、在宅勤務（テレワーク）、時差出勤、自転車通勤など、人との接触を低減する取組を行うこと。

11. 誹謗中傷や差別の防止

感染した方やその関係者などに対する、インターネットや SNS 上などでの誹謗中傷、うわさ話などは厳に慎み、県や市町村などの公的機関が発信する情報に基づき、人権に配慮した冷静な行動をとること。

また、ワクチンを接種できない方を含め、ワクチンを接種していない方に対して、誹謗中傷や不当な差別をしないこと。

島根県の対応（令和4年2月18日島根県対策本部決定）

【令和4年2月21日以降のイベント等開催制限の目安について】

- (1) 観客の広域的な移動やイベント等の前後の活動で生じる、イベント等に係る感染拡大リスクを抑制し、また、イベント等における感染防止策等を徹底する観点等から、令和4年2月18日付の内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室長の事務連絡「基本的対処方針に基づくイベントの開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項等について」（以下、令和4年2月18日付け事務連絡）に基づき、令和4年2月21日以降、イベント等の開催制限について、①感染防止安全計画を策定し、都道府県による確認を受けた場合、人数上限は収容定員まで、収容率の上限を100%とする②それ以外の場合は、人数上限5,000人又は収容定員50%のいずれか大きい方かつ収容率の上限を50%（大声あり）（注1）又は100%（大声なし）とする。

	①感染防止安全計画を策定（注2）	②その他 （安全計画を策定しないイベント）
人数上限 （注4）	収容定員まで	5,000人又は収容定員50% のいずれか大きい方
収容率 （注4）	100% 大声なしの担保が前提	大声なし100%、大声あり50%以内 （席がない場合は十分な間隔）

（注1）令和3年11月19日付け事務連絡等により、「大声」を「観客等が、（ア）通常よりも大きな声量で、（イ）反復・継続的に声を発すること」と定義し、これを積極的に推奨する又は必要な対策を十分に施さないイベントを「大声あり」に該当するものとする。

（注2）参加人数が5,000人超かつ収容率50%超のイベントに適用。様式は別に定める。

（注3）様式は別に定める。

（注4）人数上限と収容率でどちらか小さい方を限度とする。

- (2) 大規模なイベント等（参加者5,000人超かつ収容率50%超）の主催者等は、感染防止安全計画を策定し、イベント開催日の2週間前までを目途に県に提出の上、確認を受けること。
- (3) それ以外のイベントの主催者等は、感染防止対策等を記載したチェックリスト（注3）を作成し、ホームページ等で公表の上、イベント終了日から1年間保管すること。
- (4) 主催者等は、イベント開催に当たっては、その規模に関わらず、「三つの密」が発生しない席の配置や「人と人の距離の確保」、「マスクの着用（不織布マスクを推奨）」、イベントの開催中や前後における選手、出演者や参加者等に係る行動管理等、基本的な感染防止策を講じること。また、参加者名簿を作成して連絡先等を把握しておくや、接触確認アプリ（COCOA）等を活用すること。
- (5) 緊急事態措置又はまん延防止等重点措置におけるイベント等開催制限の目安や、その他の取扱いについては、令和4年2月18日付け事務連絡を確認すること。

「再発見！あなたのしまねキャンペーン」の拡大・延長及び 県の観光誘客施策の再開について

令和 4 年 5 月 2 3 日
商工労働部観光振興課

1. 「再発見！あなたのしまねキャンペーン」（#WeLove 山陰キャンペーン含む）の 支援対象地域の拡大（下線部分が変更箇所）

(1) 対象事業

- ① 県内登録宿泊施設の宿泊割引
- ② 旅行会社が実施する旅行商品等（県が認めたものに限る）の割引
- ③ 地域限定クーポン「しまねっこクーポン」の配布
 - ※ ①の島根・鳥取県民対象は「#WeLove 山陰キャンペーン」
 - ※ 上記以外は「再発見！あなたのしまねキャンペーン」

(2) 対象者及び内容

対象者	内 容
島根県民・鳥取県民	(実施中)
<u>岡山県民・山口県民</u> <u>徳島県民・香川県民</u> <u>愛媛県民・高知県民</u>	<u>令和 4 年 5 月 2 5 日 (水) 宿泊・旅行分から</u> <u>割引等を開始</u>

※ 広島県民については、引き続き停止

(3) 事業期間

令和 4 年 6 月 3 0 日 (木) 宿泊・旅行分まで (7/1 チェックアウト分まで)

2. 県の観光誘客施策の再開

(1) 対象事業

県等が実施する県外からの観光誘客事業（別紙一覧）

(2) 再開時期

準備が整った事業から速やかに再開

県等が実施する県外からの観光誘客施策一覧

商工労働部観光振興課

誘客地域	事業名	事業内容
1 全国	地酒と県産米プレゼントキャンペーン	(県外からの宿泊者向け) 県外からの宿泊者に、地酒と県産米をプレゼント
2 全国	石見美肌旅行商品等造成支援事業 (石見観光振興協議会)	(旅行会社向け) 旅行会社が造成し、石見地域に送客する旅行商品の助成
3 全国	石見スポーツ・文化等合宿支援事業 (石見観光振興協議会)	(団体向け) 石見地域に2泊以上するスポーツ、文化等合宿に対する 宿泊助成
4 全国	県外貸切バス助成 (島根県観光連盟)	(旅行会社向け) 県内への旅行に対しバス代を助成
5 全国	MICE誘致事業 (島根県観光連盟)	(企業、旅行会社向け) 10名以上の宿泊を伴う企業旅行に対し、お出迎え、 パーティー等の演出、記念品プレゼント
6 全国	萩・石見空港対策事業 (島根県観光連盟)	(旅行会社、レンタカー会社向け) レンタカー助成、旅行会社への販売支援
7 広島	広島浜田線ワンコインバス事業 (石見観光振興協議会)	(外国人向け) 広島-浜田間の高速バスを片道500円で乗車
8 FDA就航地	FDA就航地からの誘客対策 (島根県観光連盟)	(旅行会社向け) FDA路線を利用した旅行商品の助成

事務連絡
令和4年5月20日

各〔都道府県〕
〔保健所設置市〕 衛生主管部（局） 御中
〔特別区〕

各〔都道府県〕
〔市区町村〕 保育主管部（局） 御中

厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部
子ども家庭局

マスクの着用の考え方及び就学前児の取扱いについて

平素より、新型コロナウイルス感染症対策にご尽力頂きありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の基本的な感染対策として、マスクの着用は極めて重要であり、会話をする際等には マスクを着用していただくよう、様々な場面で国民の皆様をお願いしているところです。

このマスク着用に関しては、どういった場面で外してよいのかという声や、マスク着用が長期化する中で表情が見えにくくなることによる影響を懸念する声があります。また、これから気温・湿度が高くなる季節になるため、マスクを着用していると熱中症のリスクも高くなることが懸念されます。

令和4年5月19日の厚生労働省アドバイザーボードにおいても、発達心理と保育の専門家からお話を伺うとともに、専門家有志から、屋外と子どものマスク着用についての考え方が示されました。

こうしたことを踏まえ、基本的な感染対策としてのマスク着用の位置づけを何ら変更するものではありませんが、今般、下記のとおり、

- ・身体的距離が確保できないが、会話をほとんど行わない場合のマスク着用の考え方を明確化するとともに、
- ・現在、オミクロン株の特徴を踏まえ、一時的に、対応を強化してきた保育所等における2歳以上の子どものマスク着用について、オミクロン株への対応以前の取扱いに戻すこととしましたので（概要については別紙参照）、内容について御了知の上、関係各所へ周知の程、御願い申し上げます。なお、周知に当たってのリーフレットを追ってお示しする予定です。

記

1. 屋外でのマスク着用について

- ・ ランニングなど離れて行う運動や、鬼ごっこのような密にならない外遊びなど、屋外で、2メートル以上を目安として他者との距離が確保できる場合はマスクを着用する必要はないこと。
- ・ 徒歩での通勤など、屋外で人とすれ違うことはあっても、会話はほとんど行わない場合は、マスクを着用する必要がないこと。
屋外であっても、近い距離で会話をするような場面では引き続き、マスクの着用を推奨すること。
- ・ 夏場については、熱中症になるリスクが高くなるので、上記のマスクを着用する必要はない場面では、マスクを外していただくことを推奨すること。

2. 屋内でのマスク着用について

- ・ 他者との距離が確保できており、会話がほとんどない場合は、マスク着用は必要ないこと。他方、会話を行う場合は、着用を推奨すること。
- ・ 距離が確保できない場合で、会話を行うときはマスクの着用を推奨すること。
加えて、通勤電車の中など距離が確保できない場合で、会話をほとんど行わないときについても、着用を推奨すること。

3. 子どものマスク着用について

- ・ 子どものマスク着用については、これまでも2歳未満については、マスク着用は奨めておらず、この取扱いに変更はないこと。
- ・ 2歳以上の就学前の子どもについては、オミクロン株への対応として、令和4年2月から、保育所等において、可能な範囲で、一時的にマスク着用を奨めてきたが、今般、この取扱いについて、2月の変更前の取扱いに戻すこと。
- ・ 具体的には、個々の発達の状況や体調等を踏まえる必要があることから、他者との距離にかかわらず、マスク着用を一律には求めないこと。

なお、施設内に感染者が生じている場合などにおいて、施設管理者等の判断により、可能な範囲で、マスク着用を求めることは考えられること。この場合でも、マスク着用を無理強いすることにならないよう、追って、留意点を子ども家庭局保育課より保育主管部(局)に対しお示しする予定であること。

【問い合わせ】

(1及び2関係)

新型コロナウイルス感染症対策推進本部(戦略班)

Mail:

(3関係)

子ども家庭局保育課

Mail:

マスク着用の考え方及び就学前児の取扱いについて

- アドバイザリーボードで示された専門家の考え方（5/19）も踏まえ、以下のように対応する。
 - 基本的な感染対策としてのマスク着用の位置づけは変更しない
 - 身体的距離が確保できないが、会話をほとんど行わない場合のマスク着用の考え方を明確化
 - 就学前の児童（2歳以上）のマスク着用について、オミクロン株対策以前の取扱いに戻す
- 引き続き、マスク着用を含めた基本的な感染対策（手指衛生や換気など）を徹底していただくとともに、こうしたマスク着用に関する考え方は、リーフレット等を作成し、丁寧に周知・広報を行う。

1. マスク着用の考え方

	身体的距離(※)が確保できる ※2m以上を目安		身体的距離が確保できない	
	屋内(注)	屋外	屋内(注)	屋外
会話を行う	着用を推奨する (十分な換気など感染防止対策を講じている場合は外すことも可)	着用の必要はない 事例①	着用を推奨する	着用を推奨する
会話をほとんど行わない	着用の必要はない	着用の必要はない	着用を推奨する 事例③	着用の必要はない 事例②

(注) 外気の流入が妨げられる、建物の中、地下街、公共交通機関の中など

※夏場については、熱中症防止の観点から、屋外の「着用の必要はない」場面で、マスクを外すことを推奨。

※お年寄りと会う時や病院に行く時などハイリスク者と接する場合にはマスクを着用する。

事例①

- ・ランニングなど離れて行う運動
- ・鬼ごっこなど密にならない外遊び

事例②

- ・徒歩での通勤など、屋外で人とすれ違うような場合

事例③

- ・通勤電車の中

2. 小学校就学前の児童のマスク着用について

- 2歳未満（乳幼児）は、引き続き、マスク着用は奨めない。
- 2歳以上は、以下のとおり、オミクロン株対策以前の新型コロナウイルス対策の取扱いに戻す。

「保育所等では、個々の発達の状況や体調等を踏まえる必要があることから、他者との身体的距離にかかわらず、マスク着用を一律には求めない。なお、施設内に感染者が生じている場合などにおいて、施設管理者等の判断により、可能な範囲で、マスクの着用を求めることは考えられる」

(注) 2歳以上については、本年2月の基本的対処方針の改訂時に、オミクロン株の特徴を踏まえた対応とし「保育所等では、発育状況等からマスクの着用が無理なく可能と判断される児童については、可能な範囲で、一時的に、マスク着用を奨める」としていた。